

October 27, 2020

**【前日の為替概況】ユーロドル、反落 独 Ifo 企業景況感指数が予想を下回る**

26日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反落。終値は1.1810ドルと前営業日NY終値(1.1860ドル)と比べて0.0050ドル程度のユーロ安水準だった。欧州時間に発表された10月独Ifo企業景況感指数が予想を下回ったことを受けて、一時1.1803ドルまで売られた影響が残った。ただ、NY市場に限れば1.18ドル前半までのもみ合いに終始した。米国株相場の下落がリスク・オフのドル買いを誘った半面、米長期金利の低下に伴うドル売りが出たため相場は方向感が出なかった。市場では「米大統領選が接近していることもあり、様子見姿勢が強まっている」との声が聞かれた。

ドル円は小反発。終値は104.84円と前営業日NY終値(104.71円)と比べて13銭程度のドル高水準だった。欧米株価の下落を背景にリスク・オフのドル買いが先行すると一時105.06円と日通し高値を付けたものの、そのあとは同水準に位置する一目均衡表転換線に上値を抑えられた。米10年債利回りが一時0.7893%前後まで低下したことも相場の重しとなり、104.82円付近まで上値を切り下げた。

ユーロ円は反落。終値は123.81円と前営業日NY終値(124.19円)と比べて38銭程度のユーロ安水準。ユーロドルの下落や予想を下回る独経済指標を受けて、欧州序盤に一時123.78円と日通し安値を付けた影響が残った。NY市場に入ると124.16円付近まで下げ渋る場面もあったが、米国株が軟調に推移する中、戻りは鈍かった。

カナダドルは軟調。WTI原油先物価格が一時4%近く下落したことで、産油国通貨とされるカナダドルに売りが出た。対米ドルでは一時1.3225カナダドル、対円では79.30円まで下落した。

トルコリラは対ドルで一時8.0984リラ、対円で12.95円と史上最安値を更新した。先週のトルコ中銀による政策金利据え置きを受けたリラ売りの動きが続いたほか、米国による制裁への警戒感がリラ売りを誘った。

**【本日の東京為替見通し】欧州通貨中心の動きか、欧米の感染第2波は更に深刻に**

本日のドル円もレンジ取引となるか。軟調な株式市場はドル買いを促している反面、円買いにも導かれているため、ドル円はレンジ内の取引になっている。仮に株式市場が反発した場合でも円売りとドル売りの影響を同時に受けるため、ドル円はもみ合いから抜け出すのはなかなか難しいだろう。また、ボラティリティの低さから104円台、105円台はキリが良い水準を中心にオプションの設定が多く観測されていることで、オプションのガンマプレーもレンジを狭める要因となりそうだ。

ドル円は大きなレンジを期待できないが、欧州通貨の値動きは激しくなる可能性がある。欧州の新型コロナウイルス感染第2波は深刻で、複数の国で感染者数、死者数が最高記録を更新している。各国とも規制を強化はしているが、第1波と比較すると規制水準はまだ緩い。今後の感染者数次第で更なる規制強化が行われた場合は、経済的な影響は計り知れず欧州通貨の売り圧力は高まりそうだ。また、欧州以上に予断が許せないのが米国の感染状況だ。週末23日にこれまで最高だった7月16日の7万7362人を大幅に上回る8万3757人まで感染者数が増加したが、週明けも高水準を維持している。通常ならばトランプ米大統領が規制などをかけるか、国民に自粛などを要請する状況だが、米大統領は「感染者数の増加は検査数が増えているから」「感染者の増加はメディアのフェイクニュース」と発言している。また、ホワイトハウス内でウイルス対策のトップを務めるペンス米副大統領も、側近5人がウイルス検査で陽性が判明したにもかかわらず遊説を継続している。いよいよ選挙が間近に迫っていることで、正副大統領は感染に構ってられない状況だが、欧州と比較しても今後のウイルス進行が急速に広まる懸念もありそうだ。すでにテキサス州エルパソなどでは病院が満床になり、22時から5時までの外出自粛要請を出している。金融市場は現時点では今年の3月に起きたような、リスク・オフによるドルの買い戻しの勢いはないが、今後の進行状況により欧州通貨に対してのドル買い圧力が増す可能性には警戒しておきたい。

欧州のもう一つの問題として残っているブレグジット交渉だが、明日28日までバルニエ英欧州連合(EU)離脱・欧州委員会首席交渉官とフロスト英・EU担当交渉官の交渉が行われる。昨日一部英紙はジョンソン英首相が米大統領選挙の結果が出るまでは、交渉を引き延ばすと報じている。また、バイデン候補が大統領選で勝利をおさめ、英EU間の合意が無い場合は、米国も英国との交渉を積極的に進めないとの観測記事も報じられている。11月3日(日本では4日)までは、ブレグジットも神経質な駆け引きが続くそうだ。なお、昨日休場だったニュージーランドと香港の両市場は本日から再開される。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

&lt;国内&gt;

特になし

&lt;海外&gt;

- 16:45 ◇ 9月仏卸売物価指数 (PPI)
- 18:00 ◇ 9月ユーロ圏マネーサプライ M3 (予想: 前年比 9.6%)
- 21:00 ◇ 9月メキシコ貿易収支 (予想: 40.00 億ドルの黒字)
- 21:30 ◎ 9月米耐久財受注額 (予想: 前月比 0.5% / 輸送用機器を除く前月比 0.4%)
- 22:00 ◇ 8月米住宅価格指数 (予想: 前月比 0.7%)
- 22:00 ◎ 8月米ケース・シラー住宅価格指数 (予想: 前年比 4.2%)
- 23:00 ◎ 10月米消費者信頼感指数 (予想: 102.0)
- 23:00 ◎ 10月米リッチモンド連銀製造業景気指数 (予想: 18)
- 24:00 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 28日 02:00 ◎ 米財務省、2年債入札
- 英国と欧州連合 (EU) の首席交渉官級による協議 (ロンドン、28日まで)

28日

- 09:30 ◎ 7-9月期豪消費者物価 (CPI)

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

26 日 21:45 スラック英首相報道官

「欧州連合(EU)との通商交渉は、乖離は大きいものの、  
時間は限られている」

26 日 22:03 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「追加コロナ対策の合意には更なる歩み寄りが必要」  
「追加刺激策の話し合いの進み方は遅いが終わっては  
いない」  
「ムニューシン米財務長官とペロシ米下院議長(米民主  
党)の協議は本日・月曜も続行」  
「トランプ大統領が受け入れられないペロシ提案が多  
い」

26 日 22:18 エルドアン・トルコ大統領

「フランス製品をボイコットすべき」  
「フランスの指導者はメンタルチェックを行うべき」

26 日 23:15 中国外務省

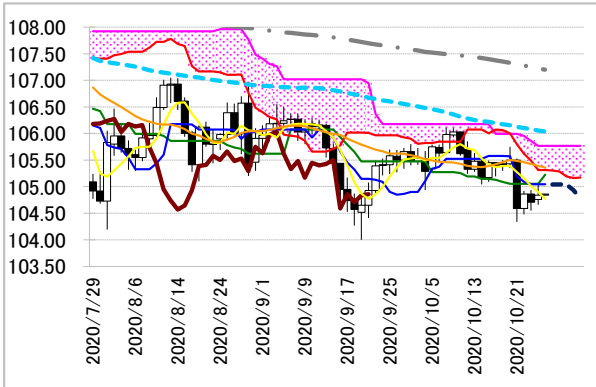
「米メディア 6 社に対して中国における活動内容を 7 日  
以内に報告することを求める」

27 日 00:52 ジョーダン・スイス国立銀行(スイス中銀、  
SNB)総裁

「スイスフランの過大評価はスイスの金融業界に問題を  
引き起こす可能性」  
「マイナス金利と為替介入により、SNB はスイスフラン投  
資の魅力を打ち消すことができる」

※時間は日本時間

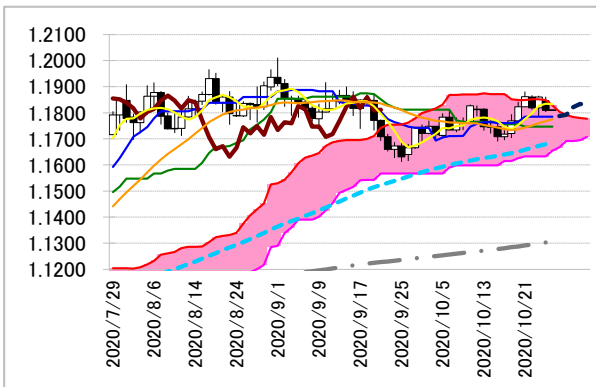
## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円＝転換線が上伸を抑制し続けそう>

小陽線引け。105 円台を回復も、一目均衡表・転換線 105.05 円が重しとなり、わずかながら上回る 105.06 円で頭打ち。転換線付近から 105.23 円へ上昇した一目・基準線へ追隨する展開への思惑も浮上しそうだが、低下角度を強めそうな転換線が上伸を抑制し続けるリスクがある。

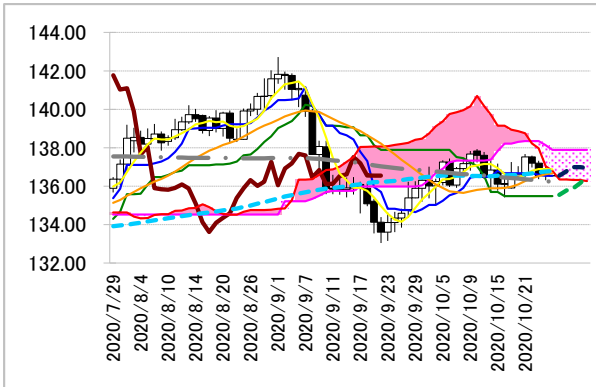
レジスタンス 1 105.31(日足一目均衡表・雲の下限)  
前日終値 104.84  
サポート 1 104.48(10/22 安値)  
サポート 2 104.00(9/21 安値)



### <ユーロドル＝雲の上限付近から下押しも想定内>

小陰線引け。一目均衡表・雲の上限付近で伸び悩んだ。低下傾向の雲の上限に沿って下押ししたが想定内の展開。まず下押しが一目・基準線 1.1785 ドル前後にとどまり、同線の切り上がりとともに戻りを試す相場となるか見定めたい。その下に一目・基準線もサポートとして控えている。

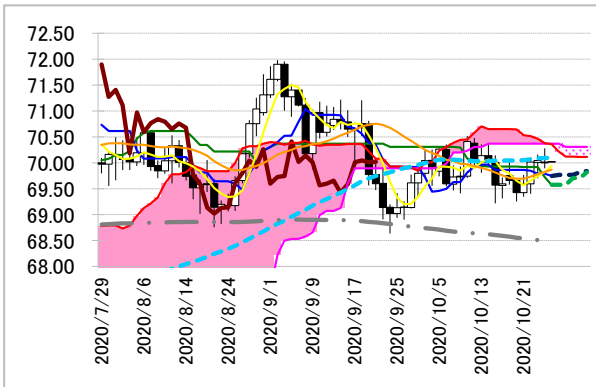
レジスタンス 1 1.1881(10/21 高値)  
前日終値 1.1810  
サポート 1 1.1747(日足一目均衡表・基準線)



### <ポンド円＝雲下限の攻防>

小陰線引け。一目均衡表・雲の下限の抵抗の前に動きが停滞した。本日 136.79 円へ低下した雲の下限を、一目・転換線 136.54 円前後のサポートを支援にこなせるか見定める局面。同線に追隨した雲への突入を予想するが、失敗しても下押し局面で一目・基準線が支えとなり、持ち直しが見込まれる同線とともに雲の抵抗へ再トライするとみる。

レジスタンス 1 137.07(10/26 高値)  
前日終値 136.55  
サポート 1 135.88(10/19 安値、ピボット・サポート 2)



### <NZドル円＝下押しあっても転換線や基準線がサポートに>

極小陽線引け。70.28 円と 14 日以来、約 2 週間ぶりの水準を回復した。70.37 円前後の雲のねじれ部分を上抜く可能性はあるものの、9 日高値 70.51 円がより強い抵抗となりそう。伸び悩んで、69.75 円へ低下した一目・転換線付近へ下押し展開も想定しておきたい。ただ、転換線は現水準で底打ちし、下抜けても一目・基準線が本日の 69.57 円からやがて持ち直す見込みで次のサポートになりそう。深押しは回避できるだろう。

レジスタンス 1 70.51(10/9 高値)  
前日終値 70.01  
サポート 1 69.57(日足一目均衡表・基準線)

